

# 平成31年度 中海・宍道湖・大山圏域市長会事業方針

## 平成31年度 圏域市長会事業方針 3本の柱

この圏域が北東アジアのゲートウェイとして、日本海側の一大拠点となるよう、産学・医工連携の推進による新産業の創出をはじめ、インドとの経済交流による人材確保、中海・宍道湖・大山圏域観光局による観光素材の磨き上げなど、グローバルな動きの強化を具現化する取組や、より強いインフラ整備・拡充が求められています。

圏域市長会発足8年目となる平成31年度においては、次に掲げる『3本の柱』の継続を軸に、新たに台湾との交流や圏域への移住・定住等の促進を図り、圏域の強固な連携のもと、全国、そして世界を相手に、ダイナミックに取り組めます。

また、圏域市長会の地方版総合戦略（第1期）の総仕上げとして、5か年の総点検を行い、地方創生のさらなる充実・強化に向け、さらにレベルアップさせた次期総合戦略を策定します。

## 圏域から全国へ そして世界へ

### ① 力強い圏域産業の国内外への発信

- 産学・医工連携の体制強化を支援
- インドとの経済交流事業の継続醸成
- 台湾との多方面での交流活性化

### ② 中海・宍道湖・大山圏域観光局による観光地域づくり

- 外国人観光客の誘客及び消費拡大
- 関連事業と連携した観光誘客の強化
  - ・ ホーランエンヤ、島根半島・宍道湖中海ジオパーク、大山隠岐国立公園満喫プロジェクト、日本遺産関連事業、国際定期航空便利用促進、FDA 静岡及び仙台便利用促進、水陸両用機運航 等

### ③ 圏域のさらなる連携と協働の実現

- 圏域内インフラの整備促進に関する要望及び調査
  - ・ 新幹線整備、8の字ルート等、交通ICカード
- 圏域への移住・定住等の促進
- 圏域の一体感の醸成

## 1. 力強い圏域産業の国内外への発信について

産学・医工連携事業では、「中海・宍道湖・大山圏域産学・医工連携推進協議会」を中心に、自立した支援体制の構築に向け、知識習得のためのセミナー開催、ニーズの把握及びシーズの発掘、マッチング支援、開発支援、販路開拓支援などを展開し、全国や世界を相手にできる新産業の創出を目指します。

また、地方版総合戦略の重要施策である「圏域企業の海外進出支援のための官民挙げた「インド」進出」について、インドIT等の人材の圏域内企業への就職や日印企業の業務提携等に繋げる取組を継続的に展開します。新たに台北市との覚書締結を進め、多方面での交流の活性化を図ります。

さらには、鳥取県版「ロシア中小企業・人的交流分野における協力プラットフォーム」に参画するなど、新たなビジネス案件の模索、見本市等への参加に取り組みます。山陰いいものマルシェの開催については、山陰のいいものを全国発信するため、発展的に新しい取組を進めます。力強い産業圏域を形成し、日本海側の重要な戦略拠点として国内外へ発信します。

## 2. 中海・宍道湖・大山圏域観光局による観光地域づくりについて

地域一体の観光地域づくりを目指し、山陰インバウンド機構など観光関係団体と、互いに連携・調整をし、国内外へ情報発信やプロモーション事業を展開します。特にインバウンドについては、オリ・パラ 2020 や大阪万博 2025 を契機に、多彩な観光素材が集中し、山陰観光のゲートウェイであるこの圏域に外国人観光客を誘客し、山陰全体に波及させます。併せて、国際定期航空便（米子ソウル・香港便）の利用促進や国際チャーター便（出雲縁結び空港）の誘致にも取り組みます。

また、外国人観光客を受け入れることのできる環境を整備します。観光案内所ネットワーク化を推進するとともに、キャッシュレス決済システム導入や二次交通の充実などについて、業種別連絡会（飲食・物販・宿泊・交通）を通じて取り組み、外国人観光客の満足度を高め、圏域への誘客及び消費拡大を目指します。

さらには、ホーランエンヤや島根半島・宍道湖中海ジオパークなどの関連事業との連携による三大都市圏へのプロモーションに加え、FDA 静岡及び仙台便の利用促進に併せ、「東海・東北方面からの誘客」や、南北の縦軸をメインとした「山陽・四国方面からの誘客」の強化に取り組みます。

## 3. 圏域のさらなる連携と協働の実現について

この圏域は、古くから地理的、歴史的な繋がりが深く、現代においても、恵まれた生活環境や充実した都市機能を持つ山陰の中核的な都市圏です。地方版総合戦略策定時の圏域人口 66 万人は、日本海側では、新潟、金沢圏域に次ぐ3番目の人口集積地です。

それぞれの市が単独で事業を行うことが困難であっても、スケールメリットを活かし、住民の生活圏としての圏域が、ひとつの市であるかのごとく、連携と協働のもと、様々な事業に取り組むことができます。

圏域人口を維持するため、移住・定住等の促進を図るとともに、圏域の発展を支えるインフラ整備促進の要望活動や、交通ICカード導入調査事業など、圏域におけるさらなる連携と協働を強化し、一体感を醸成することで、圏域全体のボトムアップを目指します。

### ○ 中央要望に関する連携強化

- ・圏域内インフラ（新幹線整備、8の字ルート（境港出雲道路、米子境港間の高規格道路、米子道4車線化、中海架橋）など）の整備促進に関する要望等の強化

### ○ 圏域への移住・定住等の促進

- ・婚活事業、大学との連携（人材育成、地域定着等）

### ○ 圏域の一体感の醸成

- ・圏域内公共二次交通の周遊利便性向上に向けた調査研究の継続
- ・オリ・パラ2020や大阪万博2025を契機とした圏域の魅力発信
- ・中海・宍道湖など、圏域が有する自然環境資源を活用した取組の充実
- ・圏域内若年層の相互交流推進 等